

広報

ふだい

明治



昭和

津波はいつかまた来る。

その日のために……



平成

今月の内容

特別企画 津波はいつかまた来る …………… 2～15
 「ふだいの昆布で村おこし！」新商品完成!! …… 16～17
 むし歯ゼロ・7020・8020表彰、中上ミトリさん100歳に、

ありがとうグレッグさんほか村の話題 …………… 18～19
 みんなのひろば、お便り、イラスト展ほか …… 20～23
 くらしの情報、戸籍の窓、カレンダー …………… 24～26

津波はいつかまた来る その日のために…

1人の犠牲者も出したくない

平成23年3月11日の東日本大震災は、私たちの記憶から、決して消し去ることのできない、未曾有の大災害となりました。

あの日の地震は「東北地方太平洋沖地震」と呼ばれましたが、東北地方を中心とする広い範囲に被害をもたらしたことから「東日本大震災」といわれるようになりました。大津波は、一瞬にして私たちの生活を破壊し、尊い命をも奪っていきました。

幸いにして普代村は、普代水門と太田名部防潮堤が功を奏し、住宅に被害がなかったものの、地震直後海に向かった1人が行方不明となり、国道を走行中の村民7人が、野田村で津波によって尊い命を奪われました。「あのとき、こうしていれば…」と思うのが人の常ですが、残念でなりません。


愛する家族を、愛する人を失う以上の災害は存在しないのです。

岩手、宮城の被災地にも足を運び、その惨状を目の当たりにし、広報にできることを考えました。

そんな中、大船渡ユネスコ協会発行の子ども向け震災記録集に出会いました。題は「津波は……」。「これだ」と思いました。今回の企画は、この記録集を参考に、自然災害について、私たちは何をどう備えればいいのか、どのように行動すればいいのかなど、村民の皆さんの協力を得て広報にできることを模索しました。

思い出したくないという人もいます。考えたくない人もいるかもしれません。今はそう思っても、いつか開いて読んでほしい。なぜなら、津波は、災害は再び起こるからです。そのとき1人の犠牲者も出したくない。そのための備えを、今からしてほしい。そう願っているからです。

※表紙・本ページの題字：普代中学生会長中山弘喜さん(2年)



3月3日、中央区の津波記念塔の前で、明治、昭和の津波で犠牲になった皆さんの冥福を祈る証屋伸夫村長や消防団の皆さん



外館 洋文さん(39・普代小教諭)

忘れられないあの日の判断

海岸から500メートルのところにある普代小学校。海に近いことから津波に備え、常に避難訓練を行っていました。

管理センターに避難

震災時は幸いにも午前授業で児童は皆下校していませんでした。地震発生後、先生たちはすぐに管理センターに避難。しかし、避難所が混み合うと思い、それぞれの車で久慈市まで帰ることにしたのです。

体験

あの日、あったこと

3月11日に起こった地震による津波は、私たちの予想を超える大きな大きな津波でした。村でも太田名部漁港や普代浜、堀内漁港などに大きな被害を受けました。船や市場、加工場、倉庫など多くの大切なものを奪われました。でも、それ以上に三陸沿岸の市町村では、2万人あまりの尊い命が奪われました。ここでは、恐ろしい津波を見た人や、避難をした人などの体験談を紹介します。あの日の自分の行動はどうだったのか、そしていつか必ず起こる地震や津波に、これからどのように行動していったらいいかを考えて欲しいと思います。



3月11日午後3時56分、道路に集まる太田名部地区の皆さん。すでに津波は来ていて、写真奥の漁協加工場は壊れています

に合わせられませんでした。揺れが収まった後、校舎の安全確認の話も出ましたが、「津波も考えられる」ということで、校長が「避難だ」と指示を出しました。そしてそれぞれの車で避難所になっている管理センターに向かいました。

悩んだ末、国道進む

私たちが着いたときは、管理センターにはまだ住民の人はほとんどいませんでした。私は車のラジオで釜石に津波70センチと聞き、「ずいぶん早いな...。これは普代にも津波が来るな」と思い車を降りました。しばらくして住民の皆さんが避難し始めたので、私たちが話しをしていると邪魔になるのかなという意見が出て、「児童は全員家に帰った後なので、避難しているだろう」という想定の下に、「帰れる人は帰ってください」という指示を受けました。

命を預かっていた責任

逆「釜石に70センチの津波」というのを聞いていなければ、情報を集めるために管理センターに長くいたかもしれませぬ。そして久慈に行く判断はなかったかと思えます。でも、もし水門を津波がもつと超えていたら浸水想定区域内の管理センターで私たちは被災し、「普代の悲劇」になっていたかもしれませぬ。いずれにしても、私に車で付いてきた職員を命を、危険にさらしてしまつた、あのときの自分の判断は、一生忘れられませぬ。



田端 陵平さん(25・消防士)

30秒遅ければ自分は…

あのときは、地震が来てすぐサイレンを鳴らそうとしましたが防災無線が使えませんでした。非番の立白

タンク車で避難指示

先輩と普代水門の陸開を閉めに行き、水門を超えて襲いかかる津波に危うく飲み込まれそうになった久慈消防署普代分署の田端陵平さん。自分は甘かったと後悔します。

(勝)さん＝緑区Ⅱが駆け付けたので、一緒にタンク車に乗り込み、太田名部上区を回り避難指示をしていました。一方、分署からの遠隔操作で閉まるはずの普代水門の県道側の陸開が閉まらないというので、署員が直接水門に行つてボタン操作で閉めようとしていました。避難指示が終わった立白さんと私は、水門に向か



白いしぶきを上げ…

澤田 忠利さん(52・沢向)

地震が来たときは、家でテレビを見ていたという澤田忠利さん。地響きがして揺れ始め直感的に「津波が来る」と思ったそうです。すぐに避難した澤田さんが高台から見た津波は…。

「逃げるよ、支度して!」

あのときはちょうど息子が就職で、家には母と2人しかいなかった。津波は直

感的に来ると思った。常日ごろから「大きい地震が来たら、津波は絶対来ると思え」といわれていた。逃げ道を確保するために2階から急いで降りて、玄関のドアを開けた。そして母に「ばあさん、逃げんべし、貴重品を支度して:逃げるよ」と言い、貴重品を取りに行った。そのときはまだ電気はついていました。

高台に避難するとき、近くのおばあさんが一人いて、その思い家に寄り「何も持たなくていいから、早く逃げるよ」と言い、母の生まれ家に3人で避難した。

そして、いったん下に戻つてみたら、うろろろしていた人がいて、ラジオで大津波警報6分と聞き、どんなのが来るか分からず、とにかく大きいんだなと思つたから「大きい津波が来るつて言っているから、家に鍵をかけて、とりあえず逃げよう」と声を掛けた。

「わあ、来た!」

その後、堀内大橋の広場に行つて、高い所から見えた。一回目は低く「こんなもんか」と思つたとき、隣のおばちゃん「おわあ、おわあ」と叫び、その先を見たら津波が山にぶつかり、すごい勢いで白いしぶきを上げて来た。「わあ、来た」と思つた瞬間、赤灯台にぶつかりその後一瞬で船が見えなくなった。「ああ、これは家も流され

た」と思つた。そのとき納屋が流され、松の木がバリバリと音を立てて流されて来た。がれきの量がすく、それで壊されたような感じだった。

電気がなく車に寝た

運良く家は助かった。津波が川に沿つて上がつていったから助かつたと思う。その日の夜から4日間宮本さんの家で過ごした。電気がなくて車に寝た。反射ストープがあつたので、おばあさんたちは家で寝泊まりしていた。

沢地区の人は、わりと逃げるのは早かつた。防潮堤はやはり欲しい。3分でも5分でもいい。気持ちの持ちようが全然違うし、多少の時間も稼げる。今回は津波が南だつたからよかつたが、もしこれが北から来た場合は…。家が助かつて本当によかつた。納屋も建てることできた。こんなに早くワカメ・コンブが採れると思わなかつた。

お父さんが心ばいで… 松葉 智輝くん(普代小4年)



お父さんは「津波が来るこつたがら、船を助けに行く」と言つたので、ジュースや食べ物をお母さんがいそいでふくろにつめているのを見て、少しこわくなつてきました。

車でお父さんとお

あの日、学校は午前じゆぎょうでぼくは家のうらの山で遊んでいました。なんだか周りの木がザワザワと動いた次のしゅんかん、ぐらぐらとゆれだしました。少しこわかつたけど、揺れが弱くなつたのでぼくはすぐ家にもどりました。

家につくと、お母さんが軽トラックにつかまって立っていました。しばらくすると、また大きなゆれがきて、となりの電しんばしらがゆさゆさとおれそうにゆれていました。家にはお父さんもお母さんもおねえちゃんもいたのであまりこわくなかつたです。

分がれた津波



太田 文吾さん(79・太田名部)

津波のときは、母さん(妻)ど倉庫にいた。あの揺れだ、「間違いない津波が来る」と思い、車に乗り水門の中に逃げた。「どれえ、神様(合祀神社)のごさ上げれば大丈夫だが」と思い、そこで見でいた。

漁協の則彦さん(太田)がカメラを持っていたので、写真を撮らせだ。漁協の加工場に津波が来たとき、堤防まで来ると思い、堤防にいた人に「上がれえ、上がれえ」と声を掛けだ。山に行つた人ど神様に行つた人ど二手に逃げた。

そして津波は、川に来たのど、水門に来たのど2つに分がれて来た。川に流れでいったのが強がったがらよがつたが、防潮堤にまでも来たが、もつと被害が大きがつたと思う。最終的に波が来たのは、防波堤の半分ぐらいまでたつた。

お父さんは「津波が来るこつたがら、船を助けに行く」と言つたので、ジュースや食べ物をお母さんがいそいでふくろにつめているのを見て、少しこわくなつてきました。車でお父さんとお母さんとぼくとで海にむかい、太田名部の水門のところでお父さんをおろして、ぼくとお母さんは車でまっていました。みんなでないで水門の中に入ってきたので、お母さんはお父さんに電話をしました。そしたらお父さんが「船は無理だ!海の水が引いているからお前たちもにげろ!」と言つたので、お母さんはもうスピードでお父さんが心ばいになり、なみだが出てきました。船はぜんぶ流されたけど、家ぞくみんながぶじだつたし、今は小さな船だけだ、お父さんも元気に仕事をしています。

教訓 それぞれの行動から

今回の津波は、いろんな教訓を私たちに突き付けました。皆さんの体験談などから、今後、私たちはどのように行動したらいいのかを、震災時、村災害対策本部の連絡調整役として奔走した普代分署の古馬丈裕消防司令補と考えてみます。(聴き手・広報係)



本当に「死んだ」と思った

藤森 拓也さん(20・消防士)

震災当時高校3年生だった久慈消防署普代分署の藤森拓也さん。地震があったとき藤森さんは友人と弟(小4)と祖母の4人で野田村の自宅にいました。地震後、気象庁が発表した津波予想は10m以上。しかし、藤森さんらと避難した住民に襲いかかった津波は40m近い巨大津波。津波を甘くみていた藤森さんは…

のんきに海を見ていた

私の家は野田村(十府ヶ浦)のはまなす食堂の裏にありました。津波のとき、高校は春休みで私は自宅と友達と遊んでいました。突然、携帯の緊急地震速報が鳴り「ヤバイ」と思いました。でも私の家の前が避難場所になっていたら、防災無線は波の音で聞こえ

車と山に挟まれて…

そしたら第1波が来て、車やがれきが自分の家まで流れてきました。「次来たら死ぬな」と思い、家から出ようとした。でも、玄関が水浸しだったので、友達と窓から裏山に逃げました。次に来た津波は破壊力があるもので、とんでもない津波でした。それも正面と横からと一気に押し寄せてきました。幸い避難所には元自衛隊の人がいてその人が誘導し、避難した人た

家に戻ったら…



太田 松雄さん (82・太田名部)

地震があったときは揺れが強くて油タンクが倒れそうになったので、押さえていた。その後、おれはおばあさん(妻)に連れられて車で高台に行った。だとも、おばあさんは寒くて家に着替えを取りに戻った。

そのとき、おばあさんは「津波が来る」ど思っていた。下りてきたとぎはまだ、たくさん人がいだったそう。

そして家に入って着替えをし、家を出たとき、「おがしいなあ」ど思ったらしい。近くには誰もいなくなつて、防潮堤や神社にみんな上がっていった。おばあさんは急いで車を走らせだとき、水門の間から水が来ていそう。いざ津波は来ると思っていた。あの揺れながら、昭和8年の津波のとき、親を亡くしているがらなあ。

電源失った防災無線

今回の震災で、防災無線が機能せずサイレンすら鳴らすことができませんでした。その原因は停電によるもので、2つあります。1つは地震が長く続いたことで、向野場にある中継局の非常電源装置に不具合が生じ、非常用バッテリーに切り替わらなかったこと。もう1つはスピーカーの柱に着いているブレーカーが落ちたことです。これは電気の切れ方が「パチッ」と1回で切れたのではなく「パチ、パチ」と何回も点いたり切れたりして停電したからです。

現在は、2億円で最新の機器を使い全面改修しています。10月末に完成する予定です。しかし、防災無線も万全ではありません。想定外の地震がありもし防災無線が鳴らなかったら、「最悪の事態」だど思ってください。

今回は7人に体験談をお聞きしました。いろいろな課題などが見えてきたと思いますが、**古馬** 全般的に車で被災した人が多すぎました。ただ、それが普代に当てはまるかというと疑問もあります。避難は「歩いて」が基本です。震災時は久慈市でも渋滞して危なかつたそうです。一度試してみる必要もあるかもしれません。避難所が被災したという**古馬** 他にも多くありましたが、さらに高い所と考えなければなりません。「大津波警報が出たら何処でも高い所に逃げる」と思つたほうがいいです。今回の津波は普代水門を超えてきました。 **古馬** 常に自然災害は想定外です。水門は重要ですが、あくまでも時間稼ぎと思つてください。全て頼るのは危険です。避難してまた家に戻った人もたくさんいました。 **古馬** 一番強く言いたいの



古馬消防司令補

対戻らないことです。震災では、それで亡くなった人が本当に多かつたです。避難所を充実させることができればいいのですが限界があります。だから避難したらそこにいる人たちが知恵を出して移動したり、一夜を明かすなどのことも想定しなければなりません。例えば三陸沖でマグニチュード8クラスの地震が起きたら10分、15分で津波が来るといわれています。普代分署はどんな行動になりますか。 **古馬** 「水門を閉めて高台に避難」です。今回の震災では消防団や消防署員の多くが亡くなりました。これを受け久慈広域では消防団も消防署員も津波到達の予

想時間15分前には避難することになっています。消防団も逃げるので、皆さんも必ず逃げてください。大規模災害時の救助にも**古馬** 普代分署に今15人います。けがをした1人の人を助けるのに3人が必要です。力があれば2人でどうにか頑張れますが、最大限1人で1人を助けても、15人しか助けることができません。その場合、近くの人が重要です。もしも今度東日本大震災クラスの津波が来たら、間違いなく水門を超え

ると予想できるので、浸水想定区域内の分署も役場も逃げるしかありません。多くの命を助けるためにも、まずは自分が生き延びなければなりません。やはりそうだと、それが助け合わなければなりません。 **古馬** そのためにも、ぜひ、地域の中で助け合う「自主防災会」を各地区ごとに立ち上げて欲しいと思えます。これからは体の弱い人、高齢の人の避難方法も課題になります。自主防災会の立ち上げなど要望があればご相談に乗ります。



普代水門を超えて押し寄せる黒い津波



上空から見た普代元村

こもも 来ないと思っていました。外で遊んでいたの、あまり揺れが分からなくて…。あとで太田名部を見てびっくりしました。
成 地震が大きかったので、来ると思いました。お母さんもそう言ってました。
古馬 普代水門を津波が超えると思ってた？
こもも 超えないと思っていました。
成 ぼくもです。
古馬 超えたんだよ。水門自体の高さは15・5メートルだけど、その上に水門を動かすモーターがある建屋があり、その換気口から海水が入ったから、津波は20メートルは超えていたね。

広報 そのときの映像が普代分署の監視カメラに写ってたんだ。左の写真がそのときのものだよ。同じ位置から撮ってるんだけど、1枚目は津波の日の午前中、2枚目の写真は、すごい勢いで黒い波が水門を超えているよね。道路の扉が開いていたんだけど、そこより、上のほうからすごいよね。すごい！
成 すごい！
深渡橋まで津波はいった
古馬 今度は下の写真を見て。普代浜の奥にある普代水門が分かる？ 海の規模から見たら小さいよね。地球は陸が3割、海が7割。そして日本は海に囲まれて

いるよね。だから、津波の被害がいつも起こるんだ。でも、普代は山が多いから、逃げれば助かるよ。野田とか久慈に比べたら条件はいいよね。とにかく近くの高いところだよ。
こもも こうやって上から見てみると、まちがあるほうも低いですね。
古馬 そうだね。分かっていることでは明治29年6月15日に津波が来て、昭和8年3月3日にまた大きい津波が来ているんだ。普代元村は川沿いに深渡橋のほうまでいったって話だよ。
広報 今役場で、ここまで津波が来るって予想した「ハザードマップ」っていう地

図を作っているから、太田名部や普代の元村、沢向、堀内で遊ぶときは、どこに避難するか確かめておいてね。いつ、どこで、地震が起こるか分からないから。
彩乃 本当ですね。津波のときはちようど野田だったんですよ。
綾 お母さんが田老に住んでいたことがあって、本当にいつ来るか分からないからって言われてました。
もしも久慈で警報が…
古馬 じゃあ、もし久慈の長内町にあるユニバースで大津波警報がたらどうする？
こもも 久慈は平地が多いから怖い…。
古馬 状況にもよるけど、久慈は交差点が多く信号も多いから、車は使わないほうがいいと思うよ。あの辺だったら「古墳の湯」に行ける道路があるから、そこに歩いて避難したほうがいい。基本は「近くの高いと

ころ」だよ。車にも簡易トイレや水、乾パンとか用意しておいたほうがいいよね。そして、久慈や野田を走るときは、道路に「過去の津波浸水区間」っていう看板が出ているから、確認しておいたほうがいいよ。
広報 野田は、国道が海の近くだから、いざというときのために山側の道路を確認しといたほうがいいよ。「こうなったら、こうしよう」と考えておくのは大事。頭にものが落ちてから考えたり、津波が来てから逃げ方を考えていたら遅いからね。
古馬 「備えあれば憂いなし」。ふだん準備しておけば、万一のときも心配なくて済むね。

上区の中上運送さんの前にある標識



学 ぶ 地震・津波を考えよう！

防災力をアップさせる基本は、1に自然災害を理解する、2に地域の現状を知る、3にみんなで考え行動する—の3点です。今回の震災では「想定外だった」という言葉をよく聞きました。考えてもいなかったことが起こったということです。いざというときに、正しい判断をするためにも、地震や津波について理解することが大切です。みんなで話し合うことで、自分が知らなかったことが分かり、知識が身に付くことで「想定外」が「想定内」に変わっていきます。今回は小中学生と普代分署の古馬さんと広報係とで地震・津波について考えてみました。



過去の地震や津波、備えについてみんなで学びました

普代水門を超えた津波
広報 みんな、今日は集まってくれてありがとう。これから地震や津波のことを話し合うけど、よろしくお願ひします。まず、津波があった日はみんなどこにいたの？
こもも 友達の家で遊んでいましたが、帰った方がいいと言われて家に帰りました。
成 1回家の外に出て、戻ったら停電になっていたの、車にいました。
古馬 津波は来ると思ってた？

- 参加者**
- 古馬 丈裕さん(久慈消防署普代分署)
 - 上方こももさん(普代小5年=児童会長)
 - 藤嶋 成さん(普代小5年=児童副会長)
 - 宮本 彩乃さん(普代中2年)
 - 宮田 綾さん(普代中1年)
 - 広報係 (総務課政策推進室)

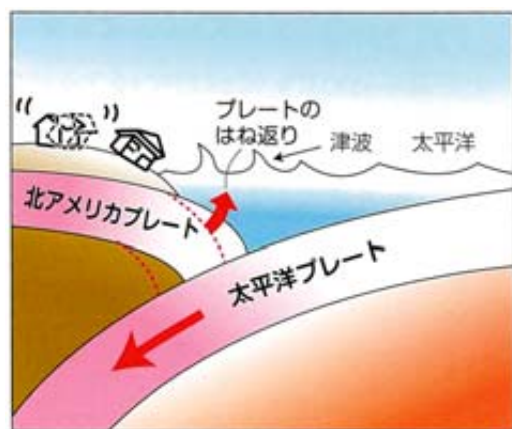
昭和8年の三陸大津波後の太田名部地区



過去の津波による死者と流された家

地区	明治29年6月15日	昭和8年3月3日
黒崎		2人
太田名部	196人 37戸	99人 43戸
普代	95人 28戸	29人 32戸
堀内	11人 6戸	7人 4戸
合計	302人 71戸	137人 79戸

今後起こり得る地震(東海・東南海・南海)の震源域



津波の起きるわけ

災害の多い国・日本

広報 こんどは津波の歴史を考えてみるよ。下の「主な津波の年表」を見ても分かるように西暦684年から東日本大震災のあった2011年までの1327年の間に、日本では27回も大きな地震や津波に襲われているね。

このほかにも、毎年台風や集中豪雨などに襲われているよ。日本は災害の多い国で、自然災害は避けられないように思えるね。

場所によって違うけど、1年間に数センチくらい動くところもあるよ。

成 へえ。こんなにくさくさ。...

成 へえ。右下の図のように2つのプレートが少しずつ動いていて圧力に我慢しきれなくなつたときに、どちらかが急に動く。海底で地震が起こって、海面が盛り上がりそれが津波になるんだ。

古馬 村に関する津波は、明治の三陸大津波から37年後で昭和の三陸大津波に襲われ、78年後の東日本大震災が来てるんだ。

古馬 今私たちが生きている時間は平均で80年。だからみんなが当たり前に思っていることは、地球の歴史の中のほんの一部なんだよ。それに

地球は動いていて 歴史は繰り返される

成 そうですね。彩乃 確かに...

昭和の三陸大津波

広報 昭和8年の三陸大津波も村に多くの被害があったんだよ。左の写真は太田名部の須賀等さん(故人)が持つていたんだ。

このころの太田名部は防潮堤もないから、被害が大きかったんだ。津波が来た時間も夜中の2時半だから

成 すごいなあ。ろからすごい！

成 来ます。彩乃 来る。...

古馬 おれは生きてるうちにもう一回津波が来ると思う。だからみんな備えよう。

広報 みんな津波はまた来ると思う？

成 来ます。彩乃 来る。...



スマトラ沖大地震

古馬 最近の一番大きな津波被害だったのは、平成16年のスマトラ沖地震。津波の死者・行方不明者は約30万人。普代村100個分が全滅だよ。

成 本日に津波は怖いですよ。

古馬 短い時間だったけど、いろんな事が分かったね。今話し合ったことを、家族、学校と広げていってください。

広報 みんなで話して考えることは防災にもなるよ。

古馬 おれは生きてるうちにもう一回津波が来ると思う。だからみんな備えよう。

広報 みんな津波はまた来ると思う？

成 来ます。彩乃 来る。...

主な津波の年表 奈良時代以後の記録

- 天武13年10月14日(西暦684.11.29) M(マグニチュード)8.5 土佐、南海、東海、西海地方で大津波。
- 貞観11年5月26日(869.7.13) M8.3 三陸沖の巨大地震。宮城県の多賀城下を襲う。死者約1000人。
- 仁和3年7月30日(887.8.26) 四国、紀伊半島、大阪湾を津波が襲う。被害が大きく水死者多数。
- 永長1年11月24日(1096.12.17) 永長の東海地震M8.0~8.5 津波により駿河(静岡)でお寺や神社、民家の多くが流された。
- 正平15年10月6日(1360.11.22) M7.5~8.0 4日に大地震、5日に再震、6日に津波が熊野尾鷲、兵庫まで襲い人や家畜に被害が多くてた。
- 正平16年6月24日(1361.8.3) M8.4~8.5 摂津、阿波、土佐に被害があった。南海トラフ(四国沖)沿いの巨大地震と思われる。
- 明応7年8月25日(1498.9.20) M8.2~8.4 津波が紀伊から房総にかけて襲う。死者約4万人。南海トラフ沿いの巨大地震。
- 慶長9年12月16日(1605.2.3) M7.9 犬伏崎から九州まであった。ほぼ同時に二つの地震が起こったと考える人もいる。
- 慶長16年10月28日(1611.12.2) M8.1 三陸海岸から北海道東岸に及んだ。昭和の三陸地震津波に似ている。
- 延宝5年3月12日(1677.4.13) M7.1~7.2 陸中八戸に津波が来た。昭和の十勝沖地震に似ている。
- 延宝5年10月9日(1677.11.4) M8 上旬から地震が多かった。前の年の津波から7ヶ月後に襲来。
- 元禄16年11月23日(1703.12.31) M7.9~8.2 大正12年の関東大震災に似た、相模トラフ(東海沖)沿いの巨大地震。
- 宝永4年10月4日(1707.10.28) M8.6 わが国最大の地震の一つ。死者2万人以上、つぶれた家6万、流された家2万、被害は東海道、伊勢湾、紀伊半島でひどく、二つの地震が同時に起きたとも考えられている。
- 享保15年5月29日(1730.7.9) 前日のチリのバルパライソ沖の地震による津波。三陸海岸で田畑に被害が出た。
- 寛保1年7月19日(1741.8.29) Mは不明。北海道西海岸、津軽に津波。日本海側にも津波。北海道で死者1467人、流された家729戸。
- 寛政4年4月1日(1792.5.21) M6.4 雲仙岳が噴火して、眉山(天狗山)の東部分が崩れ、島原湾に押し寄せ津波が起こった。対岸の肥後でも津波の被害があり、「島原大変肥後迷惑」と言われた。被害は死者1万5000人、流された家、つぶれた家が6000戸余りあった。
- 安政1年11月4日(1854.12.23) M8.4 東海、東南海におよび「安政の東海地震」といわれた。この地震の34時間後に「安政南海地震」が起きている。被害地域は、中部地方から九州におよび、波の高さは串本で15m、大阪湾まで入り、被害は全部壊れた家2万戸、半分壊れた家4万戸、焼けた家6000戸、流れた家1万5000戸、死者約3000人だった。
- 明治29年6月15日(1896) M8.5 地震による被害はなかったが、津波が北海道から宮城県の牡鹿半島まで襲った。死者は青森343人、宮城3452人、北海道6人、岩手1万8158人。流されたり、壊された家8891戸、船の被害約7000隻、波の高さは吉浜24.4m、綾里38.2mなどで「明治三陸地震津波」と呼ばれた。この津波以後、津波の科学的な研究が行われるようになった。
- 大正12年9月1日(1923) M7.9 地震後に火災が起き、死者9万9331人、行方不明4万3476人、全部壊れた家12万8266戸、半分壊れた家12万6233戸、火事で焼けた家44万7128戸、同時に関東沿岸で津波も起こり、熱海で波の高さは12mを記録した。「関東大震災」
- 昭和8年3月3日(1933) M8.1 「三陸地震津波」。津波は三陸沿岸に大きな被害を与えた。青森、岩手、宮城の3県で死亡・行方不明3064人、流された家4917戸、壊れた家2346戸、浸水4329戸、流された船7303隻。波の高さは綾里で28.7m。唐丹村本郷、綾里村白浜、港なども全滅。津波はハワイからチリに達し「TSUNAMI(ツナミ)」が国際語になった。
- 昭和19年12月7日(1944) M7.9 太平洋戦争中なので、国民には知らされなかった。静岡、愛知、三重3県で死者・行方不明者1223人、全部壊れた家1万7599戸、半分壊れた家3万6520戸、流された家3129戸。波の高さは熊野灘沿岸で5.6mに達した。東南海地震。
- 昭和21年12月21日(1946) M8.5 潮岬沖。津波は静岡県から九州にまで及んだ。「南海地震」
- 昭和35年5月24日(1960) M9.5 地震の震源地は南アメリカのチリ沖。日本の反対側からやってきた。波の高さは三陸沿岸で5.6m、そのほかの地で3~4m。死者122人。壊れたり、流された家50000余戸。
- 昭和58年5月26日(1983) M7.7 震源地は秋田沖。日本海全体に津波が及ぶ。秋田の峰浜村での波の高さが14m。日本海中部地震。
- 平成5年7月12日(1993) M7.8 震源域の奥尻島では、地震発生から2~3分後に津波の第1波が来た。死者172人、行方不明26人、波の高さは藻内地区で29m。「北海道南西沖地震」。
- 平成16年12月26日(2004) M9.1 スマトラ島北西沖。大津波はインド洋に広がり、平均10m、地形によっては30mを超えた。死者28万人、行方不明7万7000人、負傷者13万人。スマトラ島周辺では、この後平成17、19、21、22年にもマグニチュード7.2以上の津波が起こっていて、日本と並んで津波の多い国である。
- 平成22年2月27日(2010) M8.8 震源地チリ中部沿岸。日本にも東北方の太平洋沿岸に津波が来た。養殖施設に58億円を超える被害が出た。
- 平成23年3月11日(2011) M9.0 三陸沖を震源とした日本国内で観測を始めて以来の1番大きな地震。津波が起きた。津波の規模は田老地区では防潮堤を超えて37.9mに達した。死者・行方不明約1万9300人。また、福島県の東京電力福島第一原子力発電所で大量の放射性物質を出す深刻な事故を引き起こした。同年末現在その終息の目途はたっていない。「東日本大震災」

皆さんにお願いしたいこと

平成23年11月25日、政府の地震調査委員会は、今後30年間で三陸沖から房総沖の海溝寄りにかけたプレート間で、死者2万人以上を出した明治三陸大津波（明治29年6月15日）と同規模の津波を引き起こす地震の発生確率を30%程度と発表しました。

しかもその大きさはマグニチュード8以上で、東日本大震災にも匹敵する津波の高さが考えられるそうです。明治三陸大津波では震度2～3程度の地震だったにもかかわらず、40近い津波を記録しました。

それから37年後、昭和三陸大津波（昭和8年3月3日）がやってきて3,000人余りの命が奪われるという悲劇が起こり、さらに78年後に来た東日本大震災。2万人余りの尊い命を奪いました。そしてさらに今年3月18日、内閣府は「南海トラフ」巨大地震の被害想定を東日本大震災の約13倍、最大で死者32万3,000人と発表しました。

歴史的にみると、今後再び大きな地震や津波が来ることは、間違いないように思えます。つまりこのあいだ、東日本大震災が起きたとはいえ、地震・津波がもたらす危機はまだ残っているということです。この「迫り来る危機」をどうやって回避するかは、私たちの心がけ次第だともいえます。

最大の敵は自分の中の「油断」です。津波はいつかまた来ます。どうか「地震があったら高いところへ逃げる」を教訓として、子々孫々に語り継いでほしいと思います。それは三陸沿岸、この普代村で津波と生きるものの掟のように思えてなりません。



震災の年、津波に負けず咲いたはまゆり

自然を知り、備えをし、油断せず

普代で生きている

「自主防災会」を結成

「自分たちの地域のことを自分たちで考え、災害に備え、助け合う」。阪神・淡路大震災や東日本大震災を教訓に、「自主防災会」という考えが強くなっています。大規模な災害がいろいろな場所で広範囲に起こ

れば起こるほど、役場や消防も機能しなくなり、近くの人がお互いに協力して危機を乗り越えなければならぬからです。

震災後村では平成24年2月25日に旭日区自治会防災会（宇部治郎会長、会員248人）が結成され、同年3月11日には上区自主防災

会（佐々木康雄会長、会員364人）が立ち上がりました。

旭日区では、地区内で話し合いを持ち、災害時の非常品を準備し、上区では、注意報の際などに一人暮らしの老人宅を訪問するなどの活動を行っています。両防災会とも「今後はもっと活動を広げていきたい」と話していました。

車社会の新たな課題

大津波では本当に多くの人が犠牲になりました。その原因の一つは車での被災です。それは、生活圏が広がったことによる車社会の新たな課題です。

独立行政法人国立防災センターの長坂俊成主任研究員は、「今回の津波は決して『想定外』ではないはず。過去にもあった津波が来ることは多くの人が想定していたはず。しかし、いろんなケースでの『被害想定』が甘かったのではないでしようか」と指摘します。また、「車で被災した原

因は、避難できる場所にたどり着くまで、全てを車で解決しようとしたからです。行けるところまで行き渋滞したら乗り捨てるといふ考えも必要です。地域により人口や道路状況が違いますので、検証してみる必要もあると思います」と話します。

地区の非常品を揃えました



旭日区自治会自主防災会
副会長 新屋 喜久男さん(61)

地区で話し合い「宝くじ助成金」を活用し、防災倉庫や発電機、避難誘導灯、ガソリン携行缶など150万円分の申請をしました。災害時の炊き出し班や誘導班なども決め、75歳以上の人も何人いるか確認しました。

去年の避難訓練でも感じましたが、「誰かがやってくれるだろう」ではなく、みんなのできることを、これからいろいろ考えていきたいと思っています。

「防災教育」の必要性

大昔から人間は、自然から多くの恵みを受けて生活してきました。いつ種をまけばよいか、どんな空になると雨が降るのかなど、あらゆる面で自然を身近に感じて、生きる術を学んできたように思います。

文明が発達した今日でも、自然との関わりなくしては、人間は生きていくことができません。平成23年には世界の人口が70億人を超えました。

それらの課題は、自然との関わりなくして解決することは難しいでしょう。車社会や情報化社会となり、より便利で豊かな社会ですが、どんなに人間社会が発達しても、自然との調和を図った生活をするのが重要です。

なぜなら、人間も自然の中の一部だから。ただ、自然はいつも私たち人間に恩恵をもたらすとは限りません。時には牙をむき、多くの災害をもたらしてきました。だからこそ、自然災害について知り、災害から人の命や財産を守っていく取り組みを考えたり、実行していく必要があります。いわゆる防災教育です。

1人も犠牲者を出さない

どうか、次の津波も、その次の津波も、この自然豊かな普代村から、1人も犠牲者を出さないよう、「津波はいつかまた来るんだ、油断しないでみんな逃げよう」。そう語り継いでほしいと思います。そして皆さん、「備えましょう」。



上区自主防災会
会長 佐々木 康雄さん(64)

避難所の整備を考えています

震災後にいろいろほかの被災地を考えたとき、やはり地域で助け合うことが必要だと思っていたので、去年の3月11日に会を立ち上げました。注意報の後に一人暮らしのお宅などを訪問したり、避難所を回ったり、訓練に参加したりしました。

これから地区の人の意見を聞いて、防災意識を高め、避難所を公園のようにしたり、トイレも揃えたいと考えています。

「ふだいの昆布で村おこし！」プロジェクト

待望の新商品が完成!!



生たれカルビ

東京都内の高級料亭の料理人だった店主がつくる「普代の昆布入り生たれ」。肉屋の目で選んだおいしい岩手県産のカルビを、この自慢の生たれで漬け込み、肉を柔らかく仕上げています。味付だからフライパンであとは焼くだけ。タマネギなどの野菜ともよく合います。

■上神田精肉店 (0194-35-2210)



昆布バー

懐かしの「あいすきゃんでえ」でおなじみの三船製菓から、パークッキーが新登場。オートミールにコーンフレークたっぷりのシリアルに、普代産コンブをミックスした。ザクザクとした1本でも食べ応えしっかり。2本食べてもカロリーはごはん1杯程度。デスクの引き出しやバックに常備を。

■三船製菓 (0194-35-2020)



こぶ鼓舞焼き

普代産コンブ入りの餡が絶妙な風味でなめらかな口当たり、生地にもコンブの粉末を混ぜて焼いたどら焼き。地元漁師たちがコンブを「こぶ」と呼ぶことにかけて、震災で被害を受けた浜へ、そして全ての頑張る人々へ、エールを込めて名付けた「鼓舞焼き」が完成しました。

■下川原商店 (0194-35-2037)



浜のお弁当おかず

「やわらか昆布煮」「イカぼっぼ焼」「鮭のちょい干し焼き」。普代産のコンブ、イカ、鮭、自社栽培のシイタケなどを使った普代の浜の味3品を、1品ごとにブロックし、1袋にパックした。解凍するだけの便利なお弁当用おかず。一気に3品使い、日替わりで1品ずつなど使い方はいろいろ。

■(株)マルサ嵯峨商店 (0194-35-3321)



北三陸の贈り物

ご贈答に好評な「北三陸の贈り物」。自慢の「いくらしょうゆ漬」に詰め合わせ可能な「こんぶ巻き」が新商品として加わった。低塩に抑えた普代産の新巻鮭を普代産コンブで巻き、素材の味を生かした味付けにしています。イクラと一緒にご飯にのせ「鮭の親子丼風」の召し上がり方もおすすめです。

■(株)越戸商店 (0194-35-2233)



普代の「昆布」

昭和40年始め、太田名部地区の研究グループが始めたのがきっかけ。長さは2~10メートルもあり、肉厚なのが特徴。カルシウム、ビタミン、ミネラルが豊富で栄養いっぱい。のりのような「すき昆布」や「こんぶ饅頭」、「こんぶかりんとう」など、コンブを使ったさまざまな商品があります。5~6月がコンブ漁シーズン。



新商品開発した皆さん

農林商工課の高井俊一商工観光係長(40)は「積極的に商品開発に努める事業者を、役場がサポートする形で進めています。『普代フェア』などで協力していただいている多くの村内外の普代応援隊の皆さんのおかげで事業が展開できています。今後もみんなで力を合わせて、普代村の魅力をもっとPRしていきたいです」

アドバイザーを受けながら、コンブを使った商品開発に取り組んできました。

発表会で榎屋伸夫村長は「新商品は高い評価を受けると考えています。新しいものをみんなで創造し発信させ、震災からの復興と村の活性化につなげましょう」と呼び掛けました。



きれいに展示された新商品

と話していました。

新商品の開発者であり普代商工会青年部長でもある上神田敬二さん(40)は、「半端な気持ちではなく、自分の知識と経験を生かした、思いを込めたものを作ろうと思ってやってきました。今後も店はもとより地域の発展のために力を尽くしていきたいです」と話していました。

各商品は、同日から(株)三陸鉄道の普代駅にあるアンテナショップ(普代駅構内)で販売。価格は鼓舞焼き11個130円、昆布バー11本入り210円、生たれカルビ11パック600円、浜のお弁当おかず11セット380円、北三陸の贈り物11セット3800円。



新商品を試食する皆さん

発表会には、養殖コンブの生産者や漁協関係者ら約50人が参加。来場者はコンブの風味などを生かした新商品の味を確かめていました。「鉄山染」に取り組む萩牛生活研究グループの作品も展示されました。

平成21年から地域資源を生かした特産品の開発などを事業化する村では、昨年からは今年にかけて村の事業者を対象に計6回の商品開発セミナーを実施。食品加工、マーケティング、デザインの専門家らの具体的な

地域資源のコンブを活用し、村を活性化させようという計画された「ふだいの昆布で村おこし！」プロジェクト。その中の特産品ブランドづくり事業の成果発表会が2月24日、役場大会議室で開かれ、村内の5業者が、特産品のコンブを使って完成させたどら焼きやクッキーなどの新商品を発表しました。

コンブ愛あふれる みんなで生み出した 魅力の一品です。

健康な『歯』に拍手!

むし歯ゼロ15人、7020・8020受賞者9人を表彰

平成24年度第2回保健推進員会議が3月1日、保健センターで開かれ、10年勤続者の感謝状の贈呈や平成24年度の保健活動の反省や今後の活動などが話し合われました。

また、同席上で平成24年度「3歳児むし歯ゼロ」の子ども15人と、70歳で自分の歯が20本以上ある「7020」達成者3人、80歳で自分の歯が20本以上ある「8020」達成者6人の表彰式が行われました。

むし歯ゼロ表彰の子どもたちは、太田敏光副村長から表彰状と記念品を受け取っていました。引き続き、国保歯科診療所の藤原秀世所長が7020、8020達成者9人を表彰しました。

藤原所長は「日ごろの努力の成果です。健康のためこれからも意識を高めてくださ

い」と講評しました。村のむし歯ゼロの子どもは3歳児健診の際、対象者20人の内15人がむし歯のない子で、75%と高い数値となっています。表彰された皆さんは次の通りです。

◆3歳むし歯ゼロ表彰
前列左から▽前川悠太(白井)▽中田悠真(力持)▽道下瑚人(白井)▽三田地永翔(中央区)▽佐々木美祐(上区)



「むし歯ゼロ」で表彰された皆さん。左は藤原所長



7020、8020で表彰された皆さん

後列左2番目から
▽島山菜白(堀内)▽太田菜々美(太田名部)▽坂上きり(堀内)▽宮本陽尋(白井)▽伊藤悠志(旭日区)▽森田青心(中央区)▽宮田曹史(欠席)▽石花琉煌(同)▽古山愛菜(同)▽古山心菜(同)

◆7020達成

39回県スポ少剣道大会 熊谷君(普小)が県3位



「全国大会出場が目標」と話す熊谷君

県スポーツ少年団主催の第39回岩手県スポーツ少年団剣道大会が11月3日、岩手県営武道館で行われ、小学校4年生以下の部に出場した熊谷心朗君(普代小4年)が普代尚武館所属が見事3位に入賞しました。

同部門には県内から88人が出場。熊谷君は3回戦を勝ち抜きました。

者表彰▽釜谷壽人(太田名部)▽米田昭子(白井)▽金子英雄(若渡)

◆8020達成者表彰▽榎谷キウ(太田名部)▽熊谷亮二(中央区)▽嵯峨弘(緑区)▽下屋敷輝雄(堀内)▽齋藤三郎(同)▽熊谷真子(同)

◆保健推進員勤続10年感謝状▽金子京子(黒崎)▽正路みつ子(同)▽長澤雪子(旭日区)▽中居弘子(緑区)▽星野幸子(鳥居)

敬称略

抜きましたが、惜しくも準決勝で敗れました。熊谷君は「声を出して、打った後に腕を伸ばすように心掛けました。全国大会出場を目標に頑張ります」と気合いが入っていました。

普代尚武館の坂下代表は「毎日素振りをしているし、練習熱心です。全国という気持ちを持ち続け練習に励んでほしいです」と話していました。熊谷君は10月13日に行われた第23回久慈地区少年ふれあい柔道・剣道大会でも小学校低学年の部で優勝、1月27日に行われた第36回久慈地方剣道大会小学校低学年の部でも優勝を飾っています。

4年間子どもたちに英語指導 グーさん、ありがとう!



教育委員会で別れのポーズを決めるグレッグさん

村外国語指導手のグレッグ・ハフリンさん(28)が3月1日、4年間務めた

教育委員会を退職しました。2月25日には国民宿舎くろさき荘で送別会が行われ、熊坂伸子教育長、小中学校教職員、教育委員会事務局職員ら約50人が参加。教育長が花束

を手渡しました。グレッグさんは、平成21年に外国語指導助手として来村。はまゆり子ども園や小中学校で英語を4年間指導。授業以外でも、サタデースクール、英会話教室の開催や中野流鶴鳥七頭舞を中学生と舞うなど、地域行事へも積極的に参加し交流を深めました。

昨年暮れには結婚。一女にも恵まれました。グレッグさんは、「4年間小さな問題がたくさんありましたが、例えば英語の授業のやり方では、小さい子どもから中学生まで幅が広く難しかった



園児とふれ合うグレッグさん



神楽を熱心に舞いました

たけど、私が徐々に慣れてからやらせてくれたし、歓迎会や送別会など、外国人をうまく迎え入れ、頑張れるようになっていく。本当にいろいろな人が助けてくれた。教育委員会の人も家族のようだった

と感謝していました。今後グレッグさんは、アメリカミズーリ州でアメリカ陸軍の警察官を目指して研修をします。最後にグレッグさんから一言。『皆さん、ありがとう!』



中上ミトリさん 100歳 親族ら自宅でお祝い

堀内の中上ミトリさんが3月10日、自宅で100歳の誕生日を迎え、家族らに囲まれて長寿を祝いました。(上写真)

親族10人が見守る中、榎屋伸夫村長が「日本一の長寿者になってください」とお祝い金5万円を手渡し、皆でごちそうを食べながら、思い出話に花を咲かせていました。

中上さんは大正2(1913)年生まれで、同地区出身。若いころは、村の海産物の行商に青森県八戸市まで出掛けたといひます。子ども5人、孫9人、ひ孫13人、玄孫が1人います。



小学生が熱戦展開

冬期間の体力づくりを目的にB&G財団会長賞第21回卓球大会兼第27回普代村卓球大会が2月17日、村B&G海洋センター体育館で行われました。(上写真)小学3・4年、同5・6年男女、中学生以上一般男子・女子の4部門に13人が参加しました。各部門の1位は次の通りです。(敬称略)

▷小学3・4年の部…①古馬理貴(普小3年)▷同5・6年の部(男子)①島山祐成(同6年)▷同5・6年の部(女子)①上方こもも(同5年)▷中学生以上一般(男子)①太田拓也(太田名部)▷同(女子)①上方さくら(普中2年)

おとうさん
おかあさん
あのね... 310



ももかちゃん
(はまゆり子ども園さくら組)

したみちももかちゃん(下道桃花・6歳)から父・信吾さん、母・沙弥香さんへ

パパのおしごとをいっぱいがんばるところが、だいすきだよ! ねるまえにコチョコチョするのがたのしいから、もっといっぱいしたいな。パパがやけどしながらつくったホットケーキもおいしかったよ。またつくってね!

おしゃれでかわいいママ。いつも、ももかのかみをかわいくあんでくれてありがとう! ももかはママのおてつだいをするのが、とってもたのしいんだよ。こんどはいっしょにパフェをつくりたいな。

あと、みんなで、いっしょにどうぶつこうえんにもいってみたい。おあきくなったらケーキ屋さんになって、おいしいチョコレートケーキをみんなにつくってあげるね!

MY FRIEND Vol.57

友達の友達は...みんな友達。そんな思いを込めて自分の友人知人をリレーで紹介するマイフレンドコーナー。今月は上区の下道峻聖さん(20)です。



スクールバスをバックに笑顔の下道さん。今年成人を迎えました。

『1年間いろんな経験ができました』

昨年4月に新採用で役場に入ったフレッシュユマンの下道峻聖さん。久慈の高校を卒業し、地元企業に勤めたあと、役場に入りました。

地元に残った理由を聞くと「普代が好きなのもありましたが、あまり村外に出たくなかったですね。環境が変わるのが嫌いだっただけですかね」と話します。

役場では教育委員会に勤務。学校給食施設の管理や事務、スクールバスの事務などを担当。放課後子ども教室も手伝ったりして経験を積んできました。

「この1年、特にしっかりとあいつをするを意識して気を付けました。学校の先生とのコミュニケーションを取ったり、子どもとふれあったり、本当にいろいろ勉強になりました」と下道さん。そんな下道さんの趣味は、冬はスノーボード、夏は海水浴だそうです。

Q&A.....

「休みの日は、冬はスノーボードに行きました。後は筋トレです。」

「時間とお金があったらしてみたいことは、使いたいイメージできないので、とりあえず貯金しますね。」

「村へひと言。海が好きなので、堀内の「まついそ公園」がまた元のように早く復旧してほしいです。」

いそまたておいしいせしよかい



深渡商店 『おでん』



煮干しだしにこだわった昔懐かしのおでん

春夏秋冬 年中おでん!



普代駅の観光センター内にある深渡商店

三陸鉄道普代駅の観光センター内にある深渡商店。ここで39年間作り続けているのが「おでん」。

おでんの具は、サツマアゲ、チクワ、コンニャク、ダイコン、豆腐、タマゴの6種類。「だしは、しょう油と煮干しとコンブだけ。調味料は入れないよ。煮干しの苦みがあるところがいいんだよ」と深渡佳子さん(72)。

「1年中、売れでも売れなくても鍋をかげてるよ。地元の人やバスを待っている人が寄ってくれだりしてねえ。何とかがんとが、やってみます」と話します。店内には、ジュース、お菓子、パン、雑貨からお土産品など取り揃え、ちよつとした高齢の人のコンビニ。39年続けている味をぜひ、ご賞味ください。



■深渡商店
☆営業時間: 9:00ごろ~17:30ごろ
☆定休日: なし
☆場所: 〒028-8332 岩手県下閉伊郡普代村9-5-2
☆問い合わせ: ☎0194-35-2371 駄菓子、スナック菓子、ジュース、パン、缶詰、カップ麺からそのほか日用品などいろいろ取り揃えています。

「マフラー」

5年 赤坂 玲美さん

マフラーの編み目の大きさが同じになるように工夫しました。首に巻くと温かいです。



「あみき」

3年 正路 歩音さん

横の糸の色を変えるところが難しかったです。ポイントは糸を交互に編んでいくことです。



「シュシュとマフラー」

1年 石花 葵さん

ゴムにすきまなく毛糸をまきつけるのが大変でした。じょうずにできてうれしいです。



ぼくとわたしの 作品展

普代小 工作

広報クイズ

今月は間違い探しクイズです。下の2つの絵に違うところが3カ所あります。あ〜けのうち、間違っている3カ所を探してみてください。



元絵



間違い探し用

難易度・★★★★☆

※イラスト・金子望さん（紫波町在住＝茂市出身）
※注 色の濃さ、「あ〜け」の文字の下に隠れている部分は間違いに含みません。

【応募方法】

はがきに答え、郵便番号、住所（地区名）、氏名、年齢、性別、世帯主の名前、電話番号を書いて応募してください。正解者の中から抽選で5人に図書カードをプレゼントします。はがきに広報ふだいの感想、ご意見、イラストなど書いてください。紙上で紹介します。

◎あて先…〒028-8392

普代村9-13-2 普代村役場 広報クイズ係

◎締め切り…4月8日(月) 当日消印有効

◎2月号の答え…①-B ②-C

◎応募総数…6通で6人が正解でした。抽選の結果、次の5人に図書カードをお送りします。おめでとうございます。

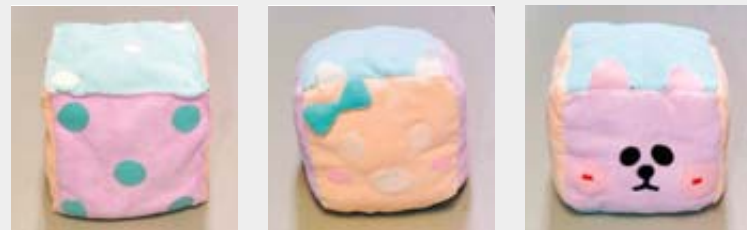
◎当選者…①森田青心くん(中央区・3歳) ②野田口太希くん(旭日区・6歳) ③滝澤光来ちゃん(久慈市・4歳)&滝澤啓光くん(同・2歳) ④仲村威慧君(京都府京都市・12歳) ⑤仲村妃礼さん(京都府京都市・15歳)



金子 美希さん 宮田 殊李さん 中村 郁美さん



太田 拓希くん 道上 朋子さん 赤坂 貴好くん



下道 諒志くん 星野奈津美さん 榎谷 美祈さん



及川 拓くん 佐藤 真子さん 中田 彩香さん



嘉藤 瑞紀さん 太田 由香さん 菅野みちるさん

みんなのイラスト & 卒業作品 展



日向 佳奈さん 川向 夏央さん 中花 文哉くん



野場 彩乃さん 山本 真広くん 中花 芹奈さん



赤坂 小春さん 深渡 穂さん



森田青心くん (中央区・3歳)



仲村妃礼さん (京都府京都市・15歳)



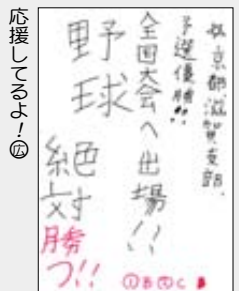
野田口太希くん (旭日区・6歳)



仲村妃織さん (京都府京都市・13歳)



滝澤光来ちゃん(久慈市・4歳) & 滝澤啓光くん(同・2歳)



仲村威慧くん (京都府京都市・12歳)

今月は普代中3年生が卒業記念に作った作品を広報に掲載して欲しいと聞きましたので、イラストに合わせて掲載します。

先月号のお便りのコーナーで紹介した高山ユリ子さん(東京都在住)旧姓近藤、声渡(出身)の詩を今月も数点紹介します。高山さんは手足がまひする難病を患い、現在闘病生活を送っています。詩は知り合いの人にパソコンで打ってもらっているとのことでした。

悲しみはどこからやって来て
悲しみはどこへ行ってどこで消えるのだろう
考えてみても分からないから
消えてしまいうまでいつもただ抱きしめている

ひとりぼっちでも…
どこからか私を呼ぶ声がある
未来の元気な私かも知れない
ひとりぼっちでも…
空もお日様もみんな見ている
だからひとりぼっちじゃない
あたたかいところに触れると
涙が乾く
笑っているお日様に触れると
涙が乾く
いつまでもこれからずっと一緒だよ

幼なじみの夕やけ空をながめ
遠く遠くにある駅を見つめて
思い出がゆきかう改札口を毎日ながめ…
いつかふるさとへ帰ろうと駅に誓った

も う2年になります。「広報ふだい」を見ると、村民の皆様が復興の中で、いきいきしている姿を見つけて元気をもらいます。

三鉄も動き出したようで、「つながるんだるま」もよるこんでいるでしょうか。春は必ずやってきますね。

近藤@さかいさんこと、近藤俊郎さん(大阪市在住)

間違いなく、春は来ます、ちつすべ…。



広報係

声・お便り & 応援メッセージ



メールやお便りなど皆さまから寄せられた村への温かいメッセージなどを紹介します。「広報ふだい」を読んだ感想などもお寄せください。



戸籍の窓

2月分（敬称略・順不同）

お誕生おめでとう（1人）

畠山 紫月（正也・祥子） 堀内

ご結婚おめでとう（0組）

お悔やみ申し上げます（8人）

日向ミチ子 白井 63歳
 横道 光 堀内 20歳
 坂下千鶴子 中央区 90歳
 前川 竹松 堀内 80歳
 熊谷 次朗 中央区 40歳
 下川 キヨ 鳥居 86歳
 二又 富芳 白井 82歳
 菅野 弘子 緑区 73歳

交通安全 対策情報

- 村内の交通事故《2月》
 人身事故 0件（0件）
 物損事故 2件（5件）
 ※（ ）内は1月からの累計
 飲酒運転検挙者 0人（0人）
 ※（ ）内は8月からの累計
- 救急車の出動回数《2月》13回
- 飲酒運転検挙状況（県交通安全対策協議会調べ）
 県内33市町村中ワースト順位…**10位**
 （1月31日現在）
 県内の検挙者数《1月》 18人

ご存じですか？

4/1、土地家屋の無料相談会

岩手県土地家屋調査士会二戸久慈支部では、4月1日「表示登記の日」を記念して、下記の通り土地家屋についての無料相談会を開きます。

▶日時…4月1日(月) 10:00~15:00
 ▶場所…久慈市文化会館（アンパホール）

▶相談内容…土地の分筆・合筆・地目変更・地積更正登記、建物の新築・増築・滅失登記、土地・建物の調査測量、境界問題

▶問い合わせ先…岩手県土地家屋調査士会二戸久慈支部久慈地区事務局（☎0194-59-3400）

「農業者年金」の加入者

農業委員会では、農業者年金への加入を推進しています。農業者年金は、①国民年金第1号被保険者で、②年間60日以上農業に従事する、③60歳未満の人ならどなたでも加入できます。

少子高齢化時代に強い積立方式の終身年金で、80歳までの保障がつかます。税制面の優遇措置や農業の担い手には特別な支援があります。

詳しくは村農業委員会（☎35-2115）まで。

I B Cラジオが684KHzで聞こえない場合は1062KHzで！

国家公務員の採用試験

人事院では、平成25年度国家公務員の採用試験を下表の通り行います。

試験名	受付期間	第1次試験日
①総合職試験（院卒者・大卒程度）	4/1(月)~4/8(月)	4/28(日)
②一般職試験（大卒程度）	4/9(火)~4/18(木)	6/16(日)
③一般職試験（高卒者）	6/24(月)~7/3(水)	9/8(日)

※上記受付期間はインターネットでの受付で、開始時間は9:00からです。

なお、郵送・持参での申し込みは①総合職試験が3/11(月)~29(金)、②一般職試験は3/21(木)~4/8(月)の土日祝日を除く9:00~17:00の間に下記にお問い合わせください。申し込み方法や受験資格など詳しくは人事院ホームページ（http://www.jinji.go.jp/saiyo/saiyo.htm）または人事院東北事務局第二課試験係（☎022-221-2022）まで。

廃車手続きを、お忘れなく

軽自動車やバイク、小型特殊車両などを廃車にしたり所有者などを変更した場合は、15日以内に届け出るよう法律で定められています。

軽自動車税は毎年4月1日現在の所有者に課税されますので、手続きが済んでいない人は、早めに済ませてください。

なお、車台・ナンバーが無く、廃車できない場合は役場税務課（☎35-2112）にお問い合わせください。

高齢者の悩み聞きます!!

岩手県高齢者総合支援センターでは、高齢者のなんでも相談「シルバー110番」を開設しています。法律、医療、認知症などの相談に専門家が応じます。相談は予約制で、秘密は厳守します。お気軽にご相談ください。

▶日時…月曜日~金曜日（土日、祝日は除く）9:00~17:00

▶相談先（利用料無料）

☎0120-84-8584

相続に関する相談聞きます!!

岩手県司法書士会では、東日本大震災にかかる相続に関する相談を、次の通り電話で受け付けています。相談は無料です。

▶日時…月曜日~金曜日（土日、祝日は除く）10:00~13:00

▶内容…自宅などが亡くなった祖父の名義のままになっている、相続人の中に行方不明者がいて話し合いができない、亡くなった父親に借金があることが判明したなど。

▶相談先（利用料無料）

☎0120-823-815



村消防団特別点検
4/28 7:30~ 普代中

普代村ふるさと応援基金への寄付状況（3月8日現在）

24年度分 **545,000円** 累計 **8,970,282円**

92件（村内32件、県内4件、県外56件）

普代村ふるさと応援寄付の申し込み・問い合わせは、村ホームページをご覧ください。総務課（☎0194-35-2111、内線119）までご連絡ください。

▶問い合わせ先…岩手県司法書士会事務局（☎019-622-3372）

「燃えないごみ」収集日の変更

「燃えないごみ」の収集日が、4月1日から下表のとおり変更になります。お間違えのないように、協力をお願いします。

収集地区	変更後	変更前
黒崎、太田名部、旭日区、中央区、上区、緑区	第3水曜	第3火曜
力持、白井、鳥居、茂市、堀内、堀内机、芦渡、萩牛	第4水曜	第4火曜

▶問い合わせ先…役場住民福祉課（☎35-2113）

広報の送料を、お願いします!

平成25年4月から1年間引き続き「広報ふだい」の送付を希望する人は、1年分の送料を現金または小為替などでお送りください。

なお、すでに送料を納めている人、ふるさと普代会会員の人は除きます。
 ▶送料…①ヤマト便1,560円（130円×12ヶ月）②郵便1,680円（140円×12ヶ月）

▶送付先…〒028-8392 岩手県下閉伊郡普代村9-13-2 普代村役場総務課広報係

▶問い合わせ先…役場総務課広報係（☎0194-35-2111、内線118）

困っていたら相談を!

久慈地区法律相談

▶期日…4月3日(水)、11日(木)▶時間…10:30~15:30▶場所…久慈市役所

▶問い合わせ先…久慈市役所生活環境課（☎0194-52-2111）

多重債務者相談

▶期日…4月25日(木)▶時間…9:00~15:00▶場所…久慈市・久慈広域消費生活センター▶問い合わせ先…同センター（☎0194-54-8004）

くらしとお金の安心相談会

▶日時…4月17日(水) 10:00~16:00▶場所…久慈市・久慈広域消費生活センター▶問い合わせ先…同センター（☎0194-54-8004）

久慈保健所での相談

エイズ・肝炎ウイルス・性器クラミジア検査、骨髄バンク登録

▶日時…4月9日(火) ①エイズ・肝炎・性器検査：15:00~18:00 ②骨髄バンク登録（要予約）：15:00~18:00

精神保健福祉相談

▶日時…4月19日(金) 13:30~（要予約）

ひきこもり相談

▶日時…4月15日(月) 14:00~15:30
 3件とも、問い合わせ先は久慈保健所保健課（☎0194-53-4987）

畳工事一式、内装工事、ふすま・障子・屏風張替

沢口畳店

普代村13-12-8 TEL・FAX 0194-35-2561

毎月2日、12日、22日

ポイント2倍デー

(有)まるに ☎35-2201

お誕生日ケーキ
ご注文承ります



中央区 三船製菓 ☎35-2020

オフィス用品を明日くるアスクール

オフィス用品デリバリーサービス! 無料カタログ申込は下記まで

最北行仁説の地
鶴島神社前

のだ事務機

☎0194-36-1030 FAX 0194-35-3016

岩手日報普代販売センター 金子新聞店

備えて安心!

花粉症対策

高橋薬局 中央区 電話 35-2045 FAX 35-2827

DVDダビング
大切な思い出をDVDに永久保存!

ビデオテープをDVDに! ベータ・8ミリ・DVCのテープからもOK!
当店通常価格1枚120分まで1,500円(税込)
8ミリフィルムもダビングOKです!!
価格応談

(有)坂下電化センター TEL 35-2138

ながさわ

お料理・お飲み物プラン、オードブル
ご相談ください。
ご予約お待ちしております!

●営業時間 18:00~23:00 ●定休日 日曜・祭日
普代村中央区 電話 35-2313 携帯 090-5833-1637

入学記念撮影

予約受付中!

キャビネ判以上注文の方に
MYカレンダープレゼント!
記念写真は美しく仕上げる当店へ

肖像写真 技能士 **カトウ写真館** 普代横町 Tel (35)2594

塗装

茂石総業 代表 茂石祐次 ☎35-2933

花粉・ほこりガードめがね
980円

「うるおい、モイストで」コンタクトレンズ販売

普代村中央区 **まっば時計店** ☎35-2276

愛車の車検

お気軽にご相談ください。
民間車検だからできる
格安料金! 日帰り車検!
お急ぎの方は、1日車検できます!!

東北運輸局長指定民間指定工場

(有)ナガサワ自動車整備工場

電話 0194-35-2216
FAX 0194-35-2158


普代ポイントカード会からのお知らせ!!

毎月5名に2,000円の商品券が当たるラッキーチャンス。
2月当選者は以下の方々です。

太田英喜様(太田名部) 嵯峨初三郎様(上区) 中居タツ様(太田名部) 西静子様(堀内) 藤嶋義子様(白井)

普代ポイントカード会 普代商工会内 ☎35-2132

お買い物は、ぜひ普代ポイントカード会加盟店のご利用をお願いいたします。





◎ふだいの昆布で村おこし!プロジェクト『普代の応援団』を紹介!!

4月のこんなこと、あんなこと

日	月	火	水	木	金	土
					5 友引 ・普代中入学式(14:00~) ・はまゆり子ども園入園式(9:30~) ・健康相談(旭区・中央区)	6 先負
ピアレストラン アリープ(盛岡市)		賢治の大地館(盛岡市)		海鮮料理 浜や(盛岡市)		
7 仏滅	8 大安 ・健康相談(萩生・落合)	9 赤口 ・普代小入学式(10:00~)				13 赤口 体育施設無料開放日
明和 株式会社(兵庫県)			手作り味工房 彩彩(盛岡市)			
14 先勝	15 友引 ・健康相談(堀内・沢向)	 きのえね支店(盛岡市)	17 仏滅 ・お誕生教室(受け付け12:00~12:15、※)	18 大安	19 赤口 ・健康相談(上区・緑区)	 居酒屋 ねまる(盛岡市)
					24 大安 ・離乳食教室(受け付け12:00~12:15、※)	
ジャーラン(盛岡市)		ピアバー ベアレン 中ノ橋(盛岡市)			産直 恵一握(盛岡洪民)	
28 先負 普代村消防団特別点検(7:30~、普代中)	29 仏滅 昭和の日	30 大安 固定資産税第1期納期限 軽自動車税納期限	 スパニッシュ ライツ(盛岡市)			3 友引 憲法記念日

「はい、普代村役場です」
▷市外局番 0194◁



役場にご用の際は、各課への直通電話をご利用ください。

総務課【政策推進室】	☎35-2111
税務出納課(税務部門)	☎35-2112
税務出納課(出納部門)	☎35-2117
住民福祉課	☎35-2113
農林商工課・農業委員会	☎35-2115
建設水産課【震災復興室】	☎35-2116
議会事務局	☎35-2118
教委事務局	☎35-2711
保健センター	☎35-2211

④は保健センター
⑤は北緯40度野球場
⑥は社会体育館
⑦は管理センター
⑧はふれあい交流センター
⑨は医科診療所
⑩は海洋センター
⑪ははまゆり子ども園

準備しておきたい防災グッズ

いっどこで災害に巻き込まれるかわからないので、各家庭や地域、学校、企業などで防災への対応を考えておかなければなりません。防災グッズもその一つ。今回の震災でもトイレや食料、水など必要と感じるものがたくさんありました。早く用意しておきたいですね。また、最も困ったのは情報収集。停電で電気、テレビ、携帯電話が使えなくなった

からです。ラジオは必ずあったほうがいいですね。今回は広報係が購入した防災グッズを参考までに紹介します。3人分用で約2万3,000円でした。ちょっと高かったですが必要なものですから。ぜひ皆さんも準備してはどうでしょうか。どこで買ったらいいか分からないという人は広報係(☎35-2111、内線118)まで、お電話ください。

■緊急トイレセット

(5~8回分)

太田名部地区は合併処理場が被災しトイレに困りました。そこで排泄物を凝固剤で素早くゼリー状に固め、においを包み込む緊急トイレセット。厚みのある処理袋は、黒色で中身が見えず安心。処理後はゴミ出しもOKです。(800円程度)

■ソーラー&手動充電式LEDランタン

1分間手巻きで約15分点灯はすぐれもの。電池がいらないから便利です。(4,000円程度)



■多機能防災ラジオ・ライト(手巻き充電式)

想定外の地震だと防災無線も100%鳴るとは限りません。そんな最悪のとき「ライト、AM・FMラジオ、時計」を。携帯充電もOK。(3,800円程度)



■マジックライス

非常時、パンだけだとパワーが出ません。そんなとき水かお湯を注ぐだけで、ご飯を食べることができるマジックライスを。5年保存。(20食、5,000円程度)

■レスキューシート

炎天下において銀色を外側にして体をくるむと、保温・断熱効果があり、また、防風・防水効果もあります。アルミ膜が体温低下を防止します。試したら意外と暖かいです。(1枚150円程度)



■セット内容 ¥23,000(3人分、水などは5年保証) ※通常は1万円程度でも購入できます。持ち出しリュック、多機能防災ラジオ・ライト、ソーラーランタン、カンパン、マジックライス、非常用飲料水、緊急トイレ、冷熱遮断アルミシート、湯沸かしボックス、使い捨てペーパー下着、小物セット(軍手、ホイッスル、ビニール袋、ウェットティッシュ、マスク、ガーゼ、ばんそうこう)、非常用給水バッグ(5ℓ)、スリッパ、レインコート、紙コップ、使い捨てカイロ、ロープ、包装用ラップ、防災手帳

人口と世帯 2月末現在

	前月比	前年比
人口	2,985人 (±0)	(-28)
(男)	1,449人 (-1)	(-23)
(女)	1,536人 (+1)	(-5)
世帯	1,133戸 (+6)	(+17)

▼今月も完成です。が、まずはおわびから。発行が遅れまして申し訳ございませんでした。▼特別企画「津波はいつか来た来る。その日のために…」はいかがでしたでしょうか。感想など聞かせていただければうれしいです。▼この9年間、本当に取材でたくさんの方に貴重なお話を聞かせていただきました。今回の企画でも、そんな皆さんとの会話の言葉が、私の中に蓄積され、新たな言葉となり、活字になったものだと思っています。9年間、本当にありがとうございました。と書く、と、お別れのようなですが、実は先日内示があり「異動なし」となりました。でも4月から採用2年目のフレッシュマンがきます。そろそろ…かなと思っています。▼最後に、上の防災グッズを役場1階の村民ホールに展示して置きます。役場にご用の際はご覧ください。では、4月もよろしくお願ひします。

(森田 ☺)

ホッと一息